

高校生達へ激励文

新本 亜也

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、皆さんは令和元年度全国選抜大会、令和2年度全国総合体育大会が中止、また令和2年度国民体育大会は本年度開催が延期と全ての大会がなくなり大変悔しい思いをされていることと思います。これらの大会に向けて日々努力してきた皆さんの気持ちを考えると言葉になりません。しかし、私は数々の「運やタイミング」が良くも悪くも人生を大きく左右するものだと思っています。



そこで、少しでも皆さんの励みになればと思い、自分の経験を少しお話したいと思います。

私は広島県の広陵高等学校 入学と同時にボクシングを始めました。昔から格闘技に興味があったわけでもなく、チャンピオンになる夢や目標があったわけでもなく、「人と違うことがしてみたい」という興味本位だけでした。当時、女子ボクシングは競技人口は少なく、オリンピックの正式種目にもなっていませんでした。「女がボク



シングなんて…」という人も多く、好奇の目で見られることも度々ありました。笑われたり、バカにされたりすることなどもあり、私は全国大会に出て日本一になり、そんな人達を見返してやりたいと強く思うようになりました。

私が競技を始めた平成15年に東京日野市にある日野自動車健保プラザで、全日本女子ボクシング選手権大会が開催されました。当時は競技開始から1年未満では試合に出ることはできないうえに、女子は演技競技の部に出場してC級ライセンスを取得して初めて実戦競技に出られるというルールだったため、1年生の間は基本練習のみ。2年生で演技の部に出場。3年生でやっと実戦競技に出られるというものでした。

女子の全国大会は年に1度で全日本女子ボクシング選手権大会のみでした。当時は3月に開催されていたこともあり、私が初めて実戦のリングに上がったのは、3月1日の高校卒業式を終えた後でした。

初めて出場した全国大会では優勝を目標にしていたが準優勝に終わり、とても悔しかったことを覚えています。リベンジに燃えていましたが、大会は年に一度なので1年先までチャンスはありませんでした。その後、平成国際大学へ進学し競技を続け3年連続で準優勝に終わり悔しい思いをし続けました。それでも日本一になるんだという強い信念を持って練習を続け、大学4年生で初めて日本一になりその後は夢だった日の丸を背負い、日本代表として国際大会に出場することができました。

時を同じくして、女子ボクシングがオリンピックとアジア大会の正式種目になりました。私が日本一になる実力がついてきたところで、このような世界規模の大会が正式種目になったことは本当に運とタイミングが良かったのだと思います。そして2010年に初めて開催されたアジア版オリンピックといわれる中国 広州アジア大会に日本代表として出場し、日本人初メダルを獲得しました。「日本人初のメダリスト」という称号を手にしたのは、このタイミングで正式種目になったからこそだと思います。



大学卒業後は、自衛隊体育学校に入りオリンピックに出るという夢がありました。しかし、当時は女子の募集がなく入ることができなかったので、大学卒業後は仕事と競技を両立して取り組みました。今では女子も高校選抜やユース国際大会などもあり、多くの大学や自衛隊体育学校、企業が女子を受け入れていて、「もう少し早ければ自分も…」と思うことは多々ありました。

しかし、自分で操作できないのが「運やタイミング」です。こうした多くの運やタイミングに良くも悪くも左右されながら環境のせいにする事なく全てを受け入れ、オリンピックでの金メ

ダルを目標に掲げ、与えられた環境で必死に練習した結果、国際大会でも何度かメダルを獲得することができました。



他の選手と比べれば決して良い環境とは言えなかったけれど、限られた時間と環境で誰にも負けないくらいの練習をしました。しかし、ある時から国内でなかなか勝てない辛く苦しい日々がやってきました。頑張っても頑張っても勝てない日々は長く続きましたが「それでもいつか必ず…」と信じて常に最善の努力をし、リングの上では最高のパ

フォーマンスを出し切りました。しかし、あと少しというところでオリンピック出場の夢は叶いませんでした。オリンピックに出場できないことは本当に悔しかったですが、悔いは1つもありませんでした。

日々、妥協する事なく練習し、心技体全てを鍛え、自分は自分のやるべきこと、出来ることは全てやったという自信があったからです。試合には負けたけど自分には一度も負けなかった。そう思えたからです。さすがに五輪出場の夢破れた直後は、「17年間も頑張ってきたのに努力は報われなかった。頑張るなんて無意味だ。」と投げやりな思いが頭を駆け巡りました。しかし、多くの方々が声をかけてくださりこれまでの頑張りを認めてくださいました。

気付けば私の周りには結果ではなく私の生き様を見てくれる人がたくさんいたのです。勝たなければ見られない景色があるし、勝たないと栄光はないけれど、金メダルが全てではありませんでした。

17年間のボクシング生活を通じて多くの方々に出会い、応援して頂きました。また、先輩や後輩、仲間ができました。仲間と頑張って乗り越えた辛い合宿も今では本当に良い思い出です。

夢破れ絶望している頃、共に日本代表で戦った私の尊敬する村田諒太先輩から教えて頂いた本に次のようなことが書かれていました。

「痛みだけではなく美しい人生の一部を手に入れたと思う事ができますように。

失敗ではなくチャレンジだったと思えますように。

夢を持っていたことを後悔しませんように。

美しい現在を笑って過ごせますように。」

私のボクシング人生は悔しいことの方が多かったけれど、ボクシングのお陰で心も体も強くなり数々の運とタイミングに左右されながらも素敵な縁でたくさんの人脈ができ美しい人生の一部を手に入れていたことに気がきました。考え方や捉え方一つでこんなにも違うのかと思いました。

新型コロナウイルスで大会が中止となり、輝く場所を奪われた皆さんの悔しさは到底計り知れません。

しかし、時に人生は運任せであり、それを受け入れていくことも必要なかもしれません。皆さんの、これまでの頑張りは決して無駄ではありません。見てくれている人、理解してくれている人は必ずいます。そしてボクシングで培った力と多くの仲間がいるはずです。運やタイミングは自分で操作できないけれど、こうなったからこそ得られるものや気付けることがあるはずです。

普通の日々の大切さや世界の平和な日々があり、その上で競技ができること。

良いことも悪いことも全てを自分の生きる糧にして皆さんも明るい未来を切り開いていってください。



新本 亜也 (しんもと あや)

広島県出身在住

広陵学園 広陵高等学校 でボクシングを始める 平成国際大学 卒 現在 (有) 美づ葉 勤務

国内大会 結果

平成17年-19年 全日本女子ボクシング選手権大会 フライ級 準優勝

平成20年 第6回 全日本女子ボクシング選手権大会 フライ級 優勝

平成22年 第8回 全日本女子ボクシング選手権大会 フライ級 優勝

平成26年 第13回 全日本女子ボクシング選手権大会 バンタム級 優勝

平成28年 第15回 全日本女子ボクシング選手権大会 バンタム級 優勝

国際大会 結果

アジア選手権 フライ級 銅メダル・広州アジア大会 フライ級 銅メダル

アジア杯 フライ級 銀メダル・インドネシアプレジデントカップ フライ級 銀メダル

台北杯 フライ級 金メダル・インドネシア警察官長杯 フライ級 銅メダル

インドネシアプレジデントカップ バンタム級 銅メダル・AIBA 世界選手権大会 バンタム級 5位